

新春を迎えて

新年 明けましておめでとうございます。
えっ！ 余りめでたくありませんか？

小林一茶に「めでたさも中くらいなりおらが春」という句があります。
この句に読み込まれた一茶の真意は、「今年も阿弥陀如来様にお任せして、ありのままに迎えた正月は、新年だからといってありがたいのかどうか・・・」

半ば諦めにも似た心境ではあるが、慎ましやかな暮らしの中で家族が揃って無事に新年を迎えられた安息をしみじみと感ずるということだそうです。

コロナウィルスの感染症で、全世界では百万人以上の方が死亡し、日本でも死亡者数は千五百人を超えています。

70歳以上の高齢感染者の死亡率は 25%を超えるという状況下で、この感染症にもかかわらず、家族揃って新年を迎えられた東京無線支部会員の皆様にとっては、”中くらい以上のめでたさ”ではと思います。

昨年九月に菅内閣が発足しましたが、「自助、共助、公助」というスローガンが一部の方々の批判を受けました。首相がまず自助を言うのは、国の責任放棄だというもの。しかし様々な社会施策、福祉施策は、「自らできる限りの努力を行い、及ばないところを共助、公助が支援する」という考え方が大前提だと思います。

最近でも、生活困窮者自立支援制度、地域包括システムの構築、障害者差別解消法、認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)、子ども・子育て支援新制度など、新たに沢山の福祉施策が作られましたが、いずれも「自助、共助、公助」の三つの輪が上手に組み合わせられ機能して達成されるものだと思います。

我々電友会会員は、まだ全員が公共企業であった電電公社のOBです。公社員だった原点に立ち戻って、各自の可能な範囲で社会貢献、「共助」に取り組んでゆきたいものです。

今年一年の皆様のご健勝とご多幸をお祈りします。

東京無線支部長 若生 憲司